

<b>【教科名】</b> 基礎化学実験 <b>【学年・学科】</b> 2年・物質化学工学科 Experiments in Fundamental Chemistry <b>【単位数・期間】</b> (必修) 2単位・後期(週2時間)で合計30時間 <b>【担当教員】</b> 橋爪 隆生 <b>【教員室】</b> 7号館2階 <b>【TEL】</b> 964-7306 <b>【e-mail】</b> hasizume@kct.ac.jp		
<b>【授業目的と概要】</b> 金属イオンの各個反応と系統分析を通じて、無機物質の性質の理解と薬品、器具の取り扱い方を学ばせるとともに実験の仕方、観察の仕方、記録の取り方、報告書の書き方などを学ばせる。		
<b>【授業の進め方及び履修上の注意】</b> (準備する道具や前提となる知識) 実験の内容の説明、実験の実施、実験のまとめを1つのサイクルとして進めていくので、実験に際しては、使用する薬品の性質、器具の性質、取り扱い方をよく理解して危険のないように実施して欲しい。		
授 業 項 目	内 容	時 間
【前期】		
----- 期末試験		
【後期】		
1. 序論	実験に対する諸注意、実験報告書の書き方。	2
2. 実験 1	イオン化傾向(金属樹) 浸透圧	2
3. 実験 2、3、4	1、2 属陽イオンの各個反応と系統分析	8
4. テスト		4
5. 実験 5、6、7	3、4 属陽イオンの各個反応と系統分析	8
6. 実験 8	炎色反応とホウ砂球反応	2
7. 実験 9	中和滴定曲線の作成	2
8. 実験のまとめとテスト		2
----- 期末試験		
<b>【達成目標】</b> ・他人と協力して実験を計画し、正しく安全に実験が行えること ・色の变化、沈殿の生成などを観察し、溶液内でどのような反応が起こったかを考察できる ・溶液内で起こる反応を化学式で表せる ・実験目的、操作、結果、考察などを含む報告書が正しく書け、期限内に提出できること	<b>【教科書】</b> 自作プリント  <b>【参考書】</b> 書名定性分析実験 出版社：培風館、著者：岩崎岩次・ほか	
北九州高専目標	(A), (C)	
JABEE 基準 1(1)		
成績 評価	<b>【評価基準】</b> ・実験操作が正しく、正確であること。 ・報告書が正しく書け、期限内に提出できること。  <b>【評価方法】</b> レポート内容 70%    テスト 20%    実験態度 10% (未提出レポートがある場合には欠点となります)	<b>【オフィスアワ -】</b> 火曜日 午後4時から5時15分 木曜日 午後4時から5時15分 午後7:00まで延長可 土曜日 10:00~15:00(要予約)